SANUMA

週　報

VOL XVI

佐沼ロータリークラブ

LET SERVICE
LIGHT THE WAY

奉仕の灯で　道を照らそう

例会場　七十七銀行佐沼支店ホール　TEL(2)－2577
例会日　毎週木曜日　12.30～13.30
事務所　振興相互銀行佐沼支店　TEL(2)－2547
会長　千葉重雄
幹事　大河内　清
週報　白石謙造　村上武彦　小林忠秋
阿部正美　秀　義弥

第752回例会　1979. 9. 6　No.10

◎ **本日の出席率**　36名（内出席免除2名）76.47％
欠席会員　若見会員、遊佐（新）会員、壹岐会員、西原会員、高橋会員、及川（健）会員、太田会員、布施孝雄会員
o前回の修正出席率　91.66％
oビジター　川名吉造君（涌谷）

◎ **ニコニコボックス**

o大河内会員
長女エリ子さんが9月2日20歳の誕生日を迎えられました。おめでとうございます。

o佐藤（文）会員
奥さんが9月4日に誕生日を迎えられました。おめでとうございます。

o氏家（良）会員
9月2日東北剣道大会が三沢市に於て行なわれ、大将として出場いたしましたが残念ながら準優勝の成績でした。
おめでとうございます。次回は是非優勝されるようお祈り申し上げます。

o布施孝之会員
本日6日次男の孝二君が15回目の誕生日を元気に迎えられました。おめでとうございます。健やかなご成長を心からお祈り申し上げます。

o小川会員
連日、新聞紙上を騒がしており大変申訳ありません。何かとご心配をいただきありがとうございましたとのことです。

◎ **会長要件**

o先週のテーブル会には多数の会員にご参加いただきまして盛会裡に、しかも和気あいあいと友情が一層深められたことと思います。企画されました親睦委員会に厚く御礼申し上げます。

o本日例会終了後理事会を開催いたします。

◎ **幹事報告**

o会場時間変更のお知らせ
仙台東RC9月10日の例会を午後6時割烹松竹に変更

o9月20日ソフトボール大会を開催します。例会時間を午後5時に変更、但し雨天の場合は卓球かバレーに変更の予定、会場その他については次回例会にお知らせします。

o涌谷RCより月報。石巻RCより週報が贈られました。回覧いたします。

oRIよりロータリーの関心事という本が配られました。

◎ **国際奉仕委員会（布施委員長）**

昨日古川RCの例会に出席しました。この例会は古川RCと台湾シンチク北RCとの姉妹クラブ締結記念例会で、いろいろ勉強するために私と遊佐（徳）会員、安部会員の3名が出席いたしました。

この記念例会のプログラムは、点鐘に初まり、両国歌の斉唱がありロータリーソングROTARIと四ツのテストの唱和があり、来賓紹介、両会長の挨拶の後、国際奉仕委員長から歓迎の挨拶、姉妹クラブ締結の調印、調印文書の交換がありました。古川RCの場合は、3年前に姉妹クラブの締結が行なわれていたのですが、3年契約ということで改めて再締結となったのであります。前回の場合は向うに行って締結したそうですが、今回は会員4名と奥さん1人、計5名が出席されました。

及川ガバナー及び市長の祝辞等があり、2時間程のセレプションがあり非常に和やかな両国家親善の催しでございまして、当クラブも西門クラブとの姉妹クラブ締結の作業が進められていることでもあり参考になりました。

◎ **情報委員会（斉藤委員長）**

RIニュースにロータリーの現状が発表されています。それによると、本年は152ケ国18.259のクラブ会員推計851.500名となっています。75週年記念事業として各クラブ毎に行事を早く決定し、来年2月に向かって除々に計画が成就するようにとのことです。本日の理事会で充分検討していただきます。

◎ **スピーチ「中年女性の性について」　氏家（康）会員**

以前のスピーチで老令者のSEX、特に男性側についてお話ししましたが、本日は女性の側からその問題についてふれて見たいと思います。

当クラブ会員の平均年令は大体55才前後と思われます。従って奥さんの年令も40～50才が大半だと思います。

そこで、せめて今後の残されたと云っては語幣がありますが、夫婦生活に若干でも参考になれば幸いです。

最近の世界的な女性の性開放の波は、我が国でも例外でないようですが、老化に伴った女性の性についての論議は極めて少ないのです。女性は更年期頃から性機能ほ衰え初めまして、それにつれて当然夫婦関係に問題が起こってよい筈ですが、さっぱり問題が提起されておりません。これは非常に不思議なことと云わざるを得ないのです。女性の生殖可能の期間も次第に延びております。ローマ時代の女性の平均寿命は２３才、中世で３３才、１９世紀後半で４９才に過ぎなかったのですが、現在の女性の平均寿命は75.1才に達し、人生の３分の１以上は閉経期以後に暮さねばならないことになりました。従って更年期以後に於ける性の問題は、今後益々提起されてくることと思われます。

ところが現在、そうしたことがないということは、どうも女性は４０才頃からＳＥＸの回数が多いことに罪悪感を持ち始めることに原因があるようです。又、閉経期を女性としての終りと考える人も多いようです。５０才以上からは望ましいＳＥＸの欲求は夫より少なくなり、夫の要求を拒む人が多く、これはおそらく婦人の潜在意識のなかに年をとってからの行為について、抑制的に、儒教的に倫理感が潜んでいるのではないかと考えます。そして、このような自縄自縛が社会的にいろいろの問題が起きる主因であると感じられます。

この閉経後の最も特徴的な変化は、エストローゲンという女性ホルモン（発情ホルモン）が低下することで、この低下したホルモンを更に分泌させようとして性線刺激ホルモンという更に上位のホルモンが非常に増えます。勿論、これには個人差が非常に多く、一概には云えないのですが、これが根本です。その結果、子宮の内膜のみならず、全生殖器、乳房、及び皮膚に広範に影響を与えるもので、一言に云えば、血管運動神経の不安定になること、生殖器の萎縮が閉経後の主徴と云えるでしょう。

血管運動神経の不安定疾状として最も一般的なのは、急激なホテリ（のぼせ）で、その結果起こってくるのが発汗です。夜間に於けるのぼせは眠りのパターンを妨げ、不眠、疲労、イライラ、頭痛をもたらします。女性の安全感を妨げることによって、間接的に性の機能障害をおこしていくものと考えられます。

このエストローゲンの欠乏によって起こる現象で二番目に多いのは、生殖器の萎縮です。以前には行為によってなんの不満もなかった女性の多くが、閉経期後、行為中、又は、その直後に肉体的な異状を訴えることが多くなってきます。行為時に激しい痛みを訴えるようになったり、長い行為によって膣の熱感や下腹痛が起こったり、又は下腹部に漠然とした異和感を訴えるようになり、また、しばしば行為の後の排尿時に重苦しさを訴えたりすることが間々見られるようになります。このような行為の不快症とか、排尿困難は、膣粘膜の著しい肥厚とか、拡張能力が減少することに基くものです。

このような現象は適当量のエストローゲンや鎮静剤投与か、カウンセリング等で軽くすることができ、最近は膣を若返らすことも容易です。近年は膣にだけ作用する女性ホルモン、エストリオールという薬が開発されて、実際に診療に用いられています。外来患者のなかに老人性膣炎とか、外炎、外陰部の異和感を訴えたり、痛み或いは不快感を訴える状態が多くあります。これらの症状としては、子宮内部に赤い斑点が出ていて、ホルモン不足が表われますし、外陰部では、ひかひかしたり、かさかさしたりする感じになっていますが、エストリオール膣錠の投与、或いは内服、場合によっては注射したりしますと急にみずみずしく若返って来るものです。

一般的な結論としては、閉経期になったからと云って性行動に変化が起こるものでもなく、又、変化させるべきものでもありません。実際、閉経期後、夫婦仲良く和合している婦人の性器は実に驚く程の若さを保っているものです。やはり使わないということは一番よくないことで、良く夫婦和合するということは、お互いに若さを保つ秘けつであろうと思われます。

しかし生物の常としまして、老化ということは避けられないことでありますが、女性は老いても性行為は可能であり、特に感受性が高く、且つ普段から有効な性の刺激を受けていれば、５０才以上でもオルガスムスを感ずることが出来ると云われています。性欲は突然に減退することがなく、実際には反対に、程々の社会的、あるいは経済的理由によって、むしろ逆に増加する場合がままあるといわれます。男性と同様に、年とともに性的刺激に対して、生理的な反意の強さや、肉体的な反意の持続は女性も同様に減少するのでありますが、その感覚的能力は死ぬまで持っているといわれています。（調査表の説明は……省略）

閉経期以後を第２の密月と称している人々があります。これ等の人々の主張は、閉経期以後の生活は、夫婦がこれ迄経験した以上に、新らしい性的、或いは官能的関係を打ち立てる素張らしい機会であるということです。閉経期以後の婦人には、自分の社会的或いは知的関心に使う自由な時間が有り余る程あり、もはや世話のやける子供達に掛りきりになったり、世話に疲れきるということもなく、おそらく大人になって初めて満足の行く性生活を最大限に楽しむ状態になっている筈であります。避妊とか妊娠とかに気を使う心配もなく、経済的にも恵まれ、何んの心配もなく性に熱中出来る筈であります。

同様に、夫もこの年配の婦人の夫であれば、大体退職後であろうかと思われますが、新らしい性生活から最上の満足感を得る地位にある筈です。衰えつつある性に対する関心を再び燃え上がらせて、新らしい刺激的な性生活を再開する時間は充分ある筈であります。近年の老人医学の教えるところでは、閉経期及びその以後の年代は人生の最終点でなく、新らしい冒険の始まりだと云われています。官能的欲求と肉体的な健康に相応した、満足の行く性生活は、人生のこの時期をより有意義なものにすることは疑いのないことだと思います。

この意味で、会員の皆様も、今後益々御奮闘されますようお祈り申し上げます。